

囲碁入門講座通信 令和2年 第21号



報告:有楽斎

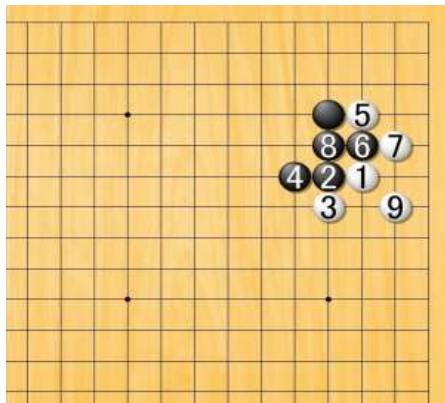
毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中です**。(棋士名は椿に因んだ名をニックネームとして表記しています)

今号も、入門者用に囲碁用語を少々ご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

囲碁用語 ツケノビ定石で覚える筋と形②

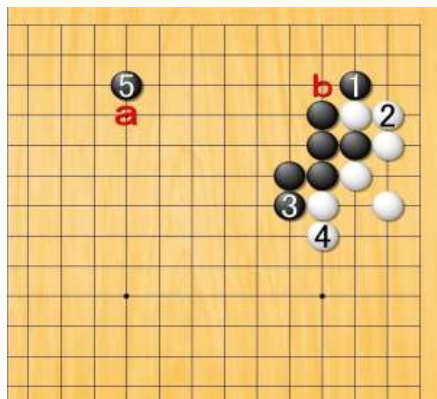
星のツケノビ定石はいきなり石が接触するだけに、いかにも「本格的な定石を覚えた」という気分になるでしょう。ただし、この定石を使うには、手順に現れない水面下の「ある変化」を知っていないと不安になります。実はこの「ある変化」に含まれるいくつかの形や手筋を知ることに、ツケノビ定石を覚える意味があるのです。前号のつづきです。

よく打たれる白の変化球



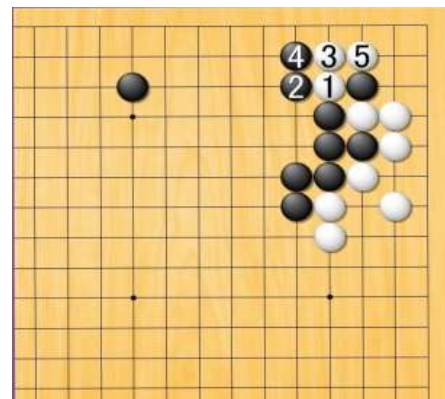
4図 もう一つのツケノビ定石

黒4までは1図(前号参照)と同じです。白5とツケて変化してきました。黒は6のワリコミから8とツギます。二手を合わせて**フリツギ**といいますが、一種の手筋です。白9のカケツギはこの一手ですが、ここで黒の打ちたい手が2つあります。



5図 手順 黒が決めておきたい手は黒1のアテと黒3のオシです。そこで手順が問題になりますが、隅の根拠にかかわる1のほうが大事で、白2で3と打てば、黒は喜んで黒2と取って黒地が大きくなります。黒1で先に3に打つと、白4とは受けてもらえず、白1と打ってきます。

先のツケノビ定石と同様に、黒5またはaと辺にヒういて定石は一段落です。この後、すぐには打ちませんが、白からはbと切る手があります。



6図 先手と後手の違い

白1のキリには黒2から白5まで、黒1子をもぎ取られますが、黒は先手を取って他の大きな場所に向かいます。黒が大きな損をしたように見えますが、白地は15目程度です。黒地もそれくらいは見込めますから、布石から中盤の段階では、先手を握るほうが得なのです。